

原文

竹島、尖閣諸島について誤解するおそれのある表現である。

ボーダーレスな時代を生きる

21世紀はボーダーレス(無国境)の時代といわれて久しい。どのような経済、文化活動でも、国家や国境を越えなければ、その発展を考えられない。ところが近年、強い文化的共通性を持ち、また世界の経済発展の中心地といわれる東アジアの海で、国境問題が大きく浮上している。日本海では日韓両国が竹島の領有権を主張しての対立が伝えられ、東シナ海では尖閣諸島問題が、日中の緊張を深めている。当初、竹島では漁業権、尖閣諸島では石油利権など、資源の問題と結びついてきたが、現在ではそれが国家や民族の威信を

かけたナショナリズムと結びつき、解決を困難にしているようである。

19世紀に完成した近代国家の枠組みは、21世紀においてなお重い。国境問題がかりに偏狭なナショナリズムによる無意味な国家・民族間の対立にまで発展するとすれば、おたがいににとって不幸なことであり、このような問題をのりこえるためには、なによりも国家・民族相互の文化や歴史の理解が必要である。人と人との関係と同じように、国家間でも自分の考えを相対化し、相手の考えを理解することが必要であろう。冷静な相互理解が強く求められるのである。

修正文

ボーダーレスの時代を生きる

21世紀はボーダーレス(無国境)の時代といわれて久しい。どのような経済、文化活動でも、国家や国境を越えなければ、その発展を考えられない。ところが近年、強い文化的共通性を持ち、また世界の経済発展の中心地といわれる東アジアの海で、国境問題が大きく浮上している。

日本の領土について、日本海では、竹島をめぐって韓国との間に領土問題があり、東シナ海では、中国が尖閣諸島の領有権を主張している。当初、竹島では漁業権、尖閣諸島では石油利権など、資源の問題と結びついてきたが、現在ではそれが国家や民族の威信をかけたナショナ

リズムと結びつき、解決を困難にしているようである。

19世紀に完成した近代国家の枠組みは、21世紀においてなお重い。国境問題がかりに偏狭なナショナリズムによる無意味な国家・民族間の対立にまで発展するとすれば、おたがいににとって不幸なことであり、このような問題をのりこえるためには、なによりも国家・民族相互の文化や歴史の理解が必要である。人と人との関係と同じように、国家間でも自分の考えを相対化し、相手の考えを理解することが必要であろう。冷静な相互理解が強く求められるのである。